

## ■第78回流域委員会への感想

安東尚美

まず、アンケート用紙について・・・特定委員への誹謗中傷となる内容をご遠慮ください、とあるのは、とても気になります。流域委員に選ばれた方は報酬ももらっているのだから、委員会での発言に対する批判は受け止めて、反論すれば良いのです。

民主社会では当然だと思うのですが、こんなことを言う委員は誰なのか、公開してほしいものです。

添付資料の中に、天ヶ瀬ダムの地質図が入っていました。

この見学会には宮本委員長もお見えで、断層破碎帯の路頭も見学され、熱心に聴いておられましたし、宮本さんにも申し上げたのですが、天ヶ瀬ダムについては、次のような検討をされてはどうかと思います。

- ・ダム本体の改修で、放流量増加、排砂門、魚道、の可能性と、費用及び下流への影響、効果。  
(1200m<sup>3</sup>/s までなら、土砂移動の連続性が復活して州ができるなら、塔の島の環境、景観もそれほど悪くならないで可能かも知れません。)
- ・同時に、重力式アーチを取り入れて分厚くする場合の費用と、耐震性の評価。

下流の宇治川堤防については、物理探査手法（地温調査など）を含めて、水みちを把握し、伏流水を利用し、堤防破壊の影響がないように逃がす、という観点で、ドレーンと腹付けのみならず、堤防の中に粘土を打ち込むような方法も比較検討してほしいです。

上流の大戸川ダムですが、鹿跳峡掘削を回避するためのトンネルとの工費比較、影響比較でも良いのでは？

宮本さんも、川上ダムも、当初は上野盆地上流の治水対策だったのが、淀川下流までこじつけられていると言っておられましたが、余野川ダムも、余野川本川や健康都市の治水にはそれな

りの効果はあります。ダムが全部ダメなのでなくて、それぞれの地域で費用対効果や影響を考えたらいいものを、無理やり、淀川水系全体（や猪名川下流）の治水効果に持っていかうとしている（いた）のでは？洪水波形や計算では、そうなる場合もあるとは思いますが。

また、治水利水環境・土地利用含めた評価が現在の技術ではできないとおっしゃっていましたが、破堤や、越水による家屋の被害については、それなりの情報も蓄積されています。地元の傍聴者がダム作らないなら堤防強化を切実に求めるのは、自分の家が漬かるなら何とかしてよ、何秒で水や土砂がどこまで来るか分からない、というところだと思います。

私も土石流災害や浸水被害地で後片付けのお手伝いをしたことや、豊岡水害の現地調査に同行したことがあります、委員の先生方ならもっと経験あるはずですよ。

木造家屋の耐震研究をしている大学の建築系研究室は日本で2つしかないと聞いたこともありますが、河川のコンサルタントに勤めていた頃、そのうち2社は1級建築士事務所でもあったし、補償コンサルタントと仕事をしたこともあります。

国交省の業務発注によっては、技術的には、評価方法開発は可能なように思います。